

本誌は 1996 年に創刊され、内視鏡外科手術の黎明期から 20 年にわたり本邦における低侵襲手術の領域横断的發展に大きく貢献してきました。このたび由緒ある本誌編集委員に加えていただき、折に触れてその責任の重さを感じています。

先日、厚生労働省の事業に日本内視鏡外科学会として支援を行った「ベトナム内視鏡外科医向け胃癌手術研修（講義、アニマルトレーニング）」に参加しました。聞くとところによると、ベトナムでは戦争の影響で 1975 年以降の生まれの世代が主戦力となっているそうで、比較的若い先生を中心とした活気溢れる研修でした。その中で、「大網切除、網嚢切除はどのように行うのか?」、「胃下部進行癌根治手術の際、再発時の閉塞性黄疸発症予防目的で #12b リンパ節郭清を臨床試験として行っているがどう思うか?」など、以前にロシアやタイの内視鏡外科医を対象とした研修に参加した時と同じく、進行胃癌に対する低侵襲手術のエビデンスやノウハウを問う質問を多数受けました。これらの国では、胃癌の癌部位別死亡率がベトナムやロシアでは国内第 3 位、タイでも第 4 位 (Globocan 2012) と高い一方、本邦のような mass screening program がなく内視鏡診断・病理診断が發展途上にあり、最新のテクノロジーを駆使した進行癌に対する低侵襲手術のニーズが高まっています。

本邦における悪性疾患に対する低侵襲手術は、外科的・腫瘍学的安全性の見地から早期癌に対する縮小手術を中心に發展してきました。技術や教育システムが熟しつつある昨今、外科的・腫瘍学的難易度の高い領域に対する内視鏡外科手術の国内における議論をさらに深め、近隣諸国のニーズにも応え得る安全性と根治性を兼ね備えた低侵襲手術体系を確立していく必要があると痛感しています。本誌をそのような場として活用していただけるよう、微力ながら尽力して参る所存です。皆様の活発な投稿を心よりお待ちしております。

(須田康一)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 21 巻 第 6 号) 2016 年 11 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1 部) 定価：本体 2,800 円＋税 * 会員には毎号送付されます。

2016 年 年間購読料：冊子版 16,380 円＋税、電子版/個人 16,380 円＋税、電子版/共有 18,840 円＋税、冊子＋電子版/個人 19,380 円＋税、冊子＋電子版/共有 21,840 円＋税 (配送料：医学書院負担) * 会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行：日本内視鏡外科学会 (代表：渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses @ convention.co.jp (担当：池田，小倉)

<http://www.jses.or.jp>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2016, Printed in Japan

発 売：(株)医学書院 (代表：金原 優) (本誌担当：水野，安部) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses @ igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

・本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は日本内視鏡外科学会が保有します。

・**JCOPY** (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社) 出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

地域における腹腔鏡下大腸癌手術の現状川崎健太郎・他 神戸労災病院外科
Internal Organ Retractor を用いた大腸癌に対する

腹腔鏡下大腸切除術の検討加藤久仁之・他 能代厚生医療センター外科

●症例報告

腹腔鏡下肝外側区域切除術を施行した肝内結石症の 1 例中馬基博・他 北里大学医学部外科
骨盤内動静脈奇形合併直腸癌に対して腹腔鏡下に根治的切除を行った 1 例武田昂樹・他 大阪大学医学部消化器外科

腹腔鏡下手術が有用であった大網捻転症の 2 例増田 崇・他 大分赤十字病院外科
左胸腔鏡下に核出した食道 GIST の 1 例森 至弘・他 埼玉県立がんセンター消化器外科
黄体血腫の鼠径ヘルニア嵌頓に対して腹腔鏡下付属器摘出術と

鼠径ヘルニア根治術を同時に施行した 1 例中川悠樹・他 横浜労災病院消化器センター
卵巣穿通を伴った S 状結腸憩室炎に対し腹腔鏡下 S 状結腸切除術を施行した

1 例大西 宙・他 横須賀共済病院外科
食道胃接合部癌に対し上体右半側臥位で胸腔鏡・腹腔鏡下部食道胃全摘、

胸腔内食道空腸吻合術を行った 1 例中島誠一郎・他 愛育病院外科
鼠径ヘルニア術後 10 年目に S 状結腸穿通をきたし腹腔鏡補助下にメッシュを

除去した 1 例上原拓明・他 新潟市民病院消化器外科
経肛門の小腸脱出を来した特発性直腸穿孔に対する腹腔鏡下手術の経験山田 翔・他 厚生連高岡病院外科
術前診断し得た成人回腸非交通型重複腸管に対し腹腔鏡補助下に切除した

1 例三宅 亨・他 滋賀医科大学外科学講座
食道静脈瘤合併胸部食道癌における内視鏡下手術手技の工夫：

腹部操作先行・脾摘付加が胸部操作時の出血抑制に有効と

考えられた 2 例森 至弘・他 大阪市立総合医療センター消化器外科
吊り上げ式腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した特発性小児胆嚢結石症の 2 例谷口正展・他 長浜赤十字病院外科
腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア修復術後メッシュ感染に対して二期的に内視鏡下

Component Separation 法で修復した 1 例今村清隆・他 手稲溪仁会病院外科

●私の工夫

胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下胃局所切除術における Endo

GIA Radial Reload™ の応用坂口善久・他 国立病院機構九州医療センター消化器外科

但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。